

【愛知県北名古屋市】

校務DX計画

1 校務DX化の現状

北名古屋市では、令和4年9月に、教職員用コンピュータや統合型校務支援システムをはじめとした学校情報システムの更改を行い、教職員に校務用の個人メールアドレス付与やMicrosoft Teamsを活用した情報共有・会議資料のペーパーレス化、自宅から安全にリモートアクセスが可能なシステムの導入など教員の働き方改革を推進してきました。

また、令和6年4月には保護者連絡ツールを導入し、教員と保護者間の連絡・文書配布・出欠連絡のデジタル化を行い、印刷・配布・集計等にかかる負担の軽減、連絡文書の紛失防止を図りました。保護者や児童生徒への調査・アンケートについては、Microsoft Formsなどを活用しデジタル化を進めています。

2 校務DX化の成果

文部科学省による令和5年度の「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果では、北名古屋市の得点が愛知県全域の平均得点を上回る結果となりました（対象校平均429.5点、愛知県全域平均354.5点）。特にDX化が進んでいるものとしては、「児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡におけるクラウドサービスの活用」、「保護者・児童生徒への調査・アンケート等におけるクラウドサービスの活用」、「職員会議等の資料のペーパーレス化」などが挙げられ、「完全にデジタル化」または「一部（半分以上）デジタル化」の回答が市内学校の8割以上に上りました。

3 校務DX化の課題及び対策

校務DXチェックリストに基づく自己点検結果によると、市内全ての学校で「業務にFAXを使用することがある」、「押印・署名が必要な書類がある」と回答しており、一部の業務においてはツールや業務のデジタル化が進んでいないことが指摘されました。緊急連絡時など一部を除き、FAX及び押印の原則廃止に向けて、メールやクラウドサービスの活用など代替する方向で検討を進めます。また、「児童生徒への各種連絡におけるクラウドサービスの活用」は「完全にデジタル化」

または「一部（半分以上）デジタル化」の回答が市内学校の約３割に留まっており、授業支援ソフトなどを活用した各種連絡のデジタル化を進めます。

北名古屋市では、教育委員会から学校へ行う調査や学校から教育委員会へ提出する各種申請書について、メールを活用することが多く、クラウドサービスを活用した形態になっていないものが多いがあるため、業務見直しやMicrosoft Teams ・Formsなどのクラウドサービス活用の検討を進めます。

4 校務DX化の今後の計画

現行の学校情報システムでは、学習系と校務系のネットワークを分離することでセキュリティを確保していますが、校務系ネットワークでのみ校務処理や校務支援システムを利用可能としているため、学習系と校務系のデータ連携が不十分となっています。また、校務用端末は職員室以外の教室等では利用できず、校務支援システムはオンプレミス型であるため、教室から校務処理や校務支援システム等を利用できないことが課題となっています。

次期学校情報システム及び校務支援システムの更新に向けて、ゼロトラストセキュリティの考え方にに基づき、アクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じたうえで、校務系と学習系ネットワークの統合によるデータ連携、校務処理や校務支援システム等のクラウド化によるロケーションフリーで効率的かつ働きやすい環境整備について研究・検討を進めます。また、教職員の業務の負担軽減を図るため、ICTを活用したテストの採点・集計等の業務効率化、保護者連絡・出欠連絡ツール等とのデータ連携による不必要な手入力作業の一掃などについて研究・検討を進めます。